

自 己 評 価 表

愛媛県立丹原高等学校
学校番号(13)

グロデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
1 「自主・積極・明朗」の校訓の下、知・徳・体の調和のとれた個性豊かな生徒、人権問題について正しい知識を身に付け、自ら行動を起こすことができる生徒を育成します。 2 知識を活用する力や、課題を発見し探究する力を培い、自己の特性を理解して主体的に進路選択を行い、自らの力で未来を切り拓く生徒を育成します。 3 地域のヒト・モノ・コトに積極的に関心を持ち、地域課題に当事者意識を持って主体的・協働的に取り組み、より良い地域社会の創出に貢献できる生徒を育成します。	【普通科】 1 生徒会を中心とした生徒主体の学校行事、地域に根差したボランティア活動を通して、企画力や実践力、コミュニケーション能力を高める学習を行います。また、読書活動や部活動等を活性化し、人権教育を推進して、調和のとれた人格形成を目指します。 2 2年次から文系・理系を選択し、少人数の講座編成も取り入れた学習を行うとともに、英語検定や商業各種検定等の取得を進めます。また、大学や専門学校を招いた進路ガイダンス等の体験型キャリア教育や、国公立大学・私立大学・短期大学・専門学校など一人一人の進路希望に応じたキャリア教育を行います。 3 総合的な探究の時間（t-time）において、「環境」「産業」「防災」「福祉」「国際」「交流」「竹」等をテーマに、地域人材や外部人材と協働し、地域課題の発見・解決を探究する教科横断的なプロジェクト型学習を行います。 【農業科（園芸科）】 1 菊花展や苗販売等の販売実習、寄せ植え講習会等のボランティア活動を通して、企画力や実践力、コミュニケーション能力を高める学習を行います。また、読書活動や部活動等を活性化し、人権教育を推進して、調和のとれた人格形成を目指します。 2 2年次からの野菜班・果樹班・草花班に分かれた学習や、農業クラブ各種発表会に向けた探究型学習、農家実習等の地域に密着した体験型学習など、農業に関する専門的知識や技術、実践力を高める学習を行います。また、資格取得を進め、基礎学力の向上を図ることで、就職と進学どちらにも対応できる学習を行います。 3 総合的な探究の時間（t-time）や課題研究を中心に、地域人材や外部人材と協働し、3年間を通して地域課題の発見・解決に取り組む学習、地域社会を支える意欲や資質を育成する学習を行います。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
グ ラ デュ エーション	グロデュエーション・ポリシーの達成	グロデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上 〔グロデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長:AB評価〕 A:80%以上、B:79～70%、C:69～60%、 D:59～50%、E:50%未満	A	〔グロデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長:AB評価〕 教職員96% 「十分に成長している」及び「成長している」がほとんどであり肯定的な評価であった。「あまり成長していない」及び「成長していない」という否定的な評価はなく、全教職員がグロデュエーション・ポリシーを理解し、日頃から生徒の探究心を向上させ、生徒の進路実現に向けた3年間を見据えた教育活動を実践しており、成果が上がったと考えられる。	総合的な探究の時間（t-time）や日頃の授業における探究型学習の導入と指導法の改善を更に図る。交流学習や地域との連携学習の促進などにより、グロデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促す。
教科指導	教科指導の充実	生徒一人一人に応じた分かりやすく工夫した授業を実践する。 ICTや生徒の活動を取り入れ、観点別評価による指導と評価の一体化が実現するよう授業改善に努める。 〔分かりやすく工夫した授業:AB評価〕 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、 D:69～60%、E:60%未満 〔ICTや生徒の活動を取り入れた授業:AB評価〕 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、 D:69～60%、E:60%未満	B	〔学校評価アンケートにおけるICTを活用した授業:AB評価〕 生徒95%、保護者89%、教職員100% 〔学校評価アンケートにおける授業の分かりやすさ:AB評価〕 生徒90%、保護者75%、教職員100% ICTの活用については全校で浸透しており、高評価を得ている。しかし、授業の分かりやすさについては保護者の評価が低下した。	ICTを活用できる生徒や教員が増えており、今後も有効活用したい。AB評価の内訳ではAの割合が増えているため、次年度は更にその比率を上げたい。 授業の分かりやすさに関しては、生徒の評価が向上している一方で、保護者の評価は低下した。PTA総会時の参観授業や公開授業などを利用し、保護者に実際の授業を参観していただく機会を設け、ICT機器や教材の活用について認識や理解を深めていきたい。
	教職員の資質・授業力の向上	校内研修会、学校訪問、自己研修等に5回以上参加し、指導力及び授業力の向上を図る。 〔校内研修会、学校訪問、自己研修等への参加回数〕 A:5回以上、B:4回、C:3回、D:2回、 E:2回未満	A	〔校内研修会実施回数〕20回実施 人権・同和教育延べ10回 各教科4回（地歴・数学・農業・商業） その他6回 新教育課程の目標、評価基準に応じた教科及びホームルーム活動等の研修を行い、授業力の向上につながった。	教科における授業反省会がコメントの交換のみとなった場合もあった。授業批評会を開催し、対面での情報交換を実施するなど振り返りの充実を図りたい。
	探究活動の充実	総合的な探究の時間（t-time）の充実を図り、生徒自ら課題を発見、探究し、その成果を発表する活動を推進する。 〔総合的な探究の時間:生徒AB評価〕 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、 D:69～60%、E:60%未満	A	〔総合的な探究の時間:AB評価〕 生徒96%、保護者85%、教職員100% 探究活動の方法を学ぶオリエンテーション・プログラムを経て、丹原・西条地域をフィールドとした探究活動に積極的に取り組んだ。昨年度に増して、校外でのフィールドワークや外部との協力にも積極的に取り組んでいる。3月には、成果発表会を計画している。	探究支援ツール「みきゃん探究」と「LoocoQ（ルーク）」のトライアル結果を分析し、生徒の自主（主体的な探究の継続）を促進するとともに、生徒・教員双方の発想を広げる支援として導入を実現したい。
	読書活動・資格検定の充実	朝読書を充実させ、読書活動の充実を図る。 商業・英語・数学・農業検定等の合格者200名以上、2級以上の合格者の増加を目指す。 〔読書活動:AB評価〕 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、 D:69～60%、E:60%未満 〔検定合格者延べ人数〕 A:200名以上、B:199～180名、 C:179～160名、D:159～140名、 E:140名未満	B	〔学校評価アンケートにおける読書活動:AB評価〕 生徒96%、保護者79%、教職員100% 〔検定合格者延べ人数〕 186名 学期ごとに読書週間を2週間程度設定し、実施した。読書活動については、生徒と教職員の評価が上昇し、保護者の評価は下がった。また、学級文庫の設置や図書館の本の整備を通して、充実した読書活動が実施できた。英語検定は準2級11名合格、商業関係検定は延べ131名合格、日本農業技術検定3級13名合格をし、成果を上げた。	今年度の具体的目標は達成できているが、保護者への読書活動に関するアピールが足りないようである。改善に努めたい。 資格の取得自体が目的とならないよう、知識や技術の定着に加え、その活用を意識させる指導に努めたい。また、資格取得の挑戦が新たな学びのモチベーションにつながるような指導に努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

進路指導	キャリア教育の充実	進路ガイダンス、農家実習などを通して体験型のキャリア教育を推進する。 進路情報を適切に提供するとともに、生徒・保護者が端末で求人情報を検索できる「就サポ」の活用を促す。 〔キャリア教育:AB評価〕 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、 D:69～60%、E:60%未満 〔進路情報提供:AB評価〕 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、 D:69～60%、E:60%未満	B	〔学校評価アンケートにおけるキャリア教育:AB評価〕 生徒96%、保護者83%、教職員100% 〔学校評価アンケートにおける進路情報の提供:AB評価〕 生徒95%、保護者79%、教職員100% 進路ガイダンスや農家実習（インターンシップ）等を通して、望ましい職業観を育成できた。 求人情報検索システム「就サポ」の活用により、3年生の就職希望者だけでなく1・2年生を含め進路希望を考える機会に活用ができた。生徒・保護者が求人情報を迅速かつ的確に入手できるようになった。	各学年で実施する講演会や進路ガイダンス等、職業を体験的に学ぶことができる機会を増やし、生徒が職業に対する関心を高められるようにサポートしたい。 「夢ナビ」等の動画サービスを有効に活用させることで、生徒の主体的な進路選択を促したい。 担任と連携し、キャリアパスポートを活用した学習の振り返りを充実させたい。
	個別指導の充実と進路実現	一人一人の進路希望に応じて丁寧な指導を行い、国公立大学15名・松山大学15名合格、進路決定率100%を目指す。 〔国公立大学合格者数〕 A:15名以上、B:14～13名、C:12～11名、 D:10～9名、E:9名未満 〔松山大学合格者数〕 A:15名以上、B:14～13名、C:12～11名、 D:10～9名、E:9名未満 〔進路決定率〕 A:99%以上、B:98～96%、C:95～93%、 D:92～90%、E:90%未満	A	〔学校評価アンケートにおける進路情報提供:AB評価〕 生徒95%、保護者78%、教職員100% 〔国公立大学合格者数〕 21名（3月10日現在） 〔松山大学合格者数〕 36名（3月10日現在） 〔進路決定率〕 99.2%（3月10日現在） 3年生の志望理由書の作成に、ベネッセの対話型オンラインサポートシステムを導入し、指導の効率化を図った。 一人一人の進路希望に応じた個別指導を推進し、成果を上げた。	生徒が主体的に進路情報を収集するために、進路関係の図書を整備に努めたい。また、学校ホームページ等を通じて、保護者向けに進路情報の発信にも力を入れていきたい。 ベネッセの対話型オンラインサポートシステム「小論文・志望理由書ナビ」をはじめとするAI技術の活用を推進し、更なる指導の効率化を目指す。 3年生の在籍数は大幅に減少するが、今年度と同様に国公立大学15名・松山大学15名合格、進路決定率100%を目標としていきたい。
生徒指導	生徒の健全育成	欠席率2.5%以内、1か年皆勤率40%以上を目指す。 公平な指導に努め、校則が時代に合ったものになるよう適宜検討する。 挨拶ができる生徒100%を目指す。 〔欠席率〕 A:2.5%以内、B:2.6～3.0%、 C:3.1～3.5%、D:3.6～4.0%、 E:4.0%以上 〔皆勤率〕 A:40%以上、B:39～30%、C:29～20%、 D:19～10%、E:10%未満 〔公平な指導:AB評価〕 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、 D:69～60%、E:60%未満 〔挨拶:AB評価〕 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、 D:69～60%、E:60%未満	C	〔欠席率〕5.6%（2学期末現在） 〔皆勤率〕39.5%（2学期末現在） 〔学校評価アンケートにおける公平な指導:AB評価〕 生徒91%、保護者89%、教職員96% 〔学校評価アンケートにおける挨拶:AB評価〕 生徒95%、保護者90%、教職員96% 欠席率は昨年度と比べると増加している。一部の生徒については、学校を休むことに対して深く考えていない。また、皆勤率は少し増加しており、欠席数も一部の生徒に集中しているのではなく、不特定である。今までの生徒のように「皆勤」を目指すという意識の生徒が減少したように感じる。 身だしなみ指導における公平な指導の評価は、保護者はほぼ昨年度と同数になっている。身だしなみ指導の回数を減らし、「身だしなみを考える時間」を設定し、生徒が主体的に自分事として捉える機会とした。その結果、身だしなみ指導に対して納得している生徒が増えている。 挨拶については、大半の生徒が自主的に気持ちの良い挨拶ができていると実感しており、生徒、保護者からの評価は高い。	安易に欠席をする生徒に対して、個別に指導していきたい。 また、個性や特性のある生徒に適した指導を行ってきたい。 長期欠席については、悩みを抱える生徒に早期に気付けるよう、更に教職員間での情報共有を深めたい。 身だしなみ指導については、今後も校則検討委員会を年1回以上開催し、生徒と共に時代に即した校則になるよう適切に検討していきたい。また、身だしなみ指導についても公平な指導の実施を継続していきたい。身だしなみ指導は各学期1回とし、身だしなみを考える時間において、日頃から身だしなみについて考えさせ、自主的に取り組めるよう指導を続けたい。 挨拶については、生徒自らが自主的に気持ちの良い挨拶ができるように指導を続けたい。 ルールメイキングプロジェクトを支援することで、生徒の主体性を育成し、健全育成を促進したい。
	交通安全指導の充実	年7回の交通指導、年3回の合同登校指導を行い、生徒の交通安全意識の高揚を図る。交通事故・交通違反ゼロを目指す。 〔交通指導・登校指導回数〕 A:10回以上、B:8回、C:6回、D:4回、 E:4回未満 〔交通安全遵守:生徒AB評価〕 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、 D:69～60%、E:60%未満 〔交通事故件数〕 A:0件、 B:1～3件、C:4～6件、 D:7～9件、E:10件以上	A	〔交通指導・登校指導回数〕 11回 〔交通事故・交通違反件数〕 0件 〔交通安全遵守:生徒AB評価〕 生徒98%、保護者93%、教職員96% 交通指導、登校指導、交通安全講話を計画的に実施しており、生徒の交通安全やヘルメット着用に関する意識は高い。今年度、交通事故の重大な事案は0件であった。軽微な事故は数件あったが、内容的には自動車の一時停止違反などによるもらい事故であった。雨の日もカッパの着用が徹底されており、傘さし運転をする生徒はいない。	引き続き交通指導・登校指導を継続し、交通安全講話を年1回実施していくことにより、交通安全に関する意識の高揚を図りたい。登下校中の交通事故・交通違反ゼロを目指したい。 令和8年4月1日から、道路交通法の一部を改正する法律のうち、16歳以上の自転車の運転者を対象として交通反則通告制度（青切符）が施行されることを周知し、日頃から自転車ルール遵守について徹底していきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

特別活動	学校行事の活性化	生徒自らが企画・運営する学校行事を実現し、生徒が主役となって活躍する機会を増やすことで「学校行事の充実」のAB評価95%以上を目指す。 〔学校行事の充実：生徒AB評価〕 A：90%以上、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満	A	〔学校評価アンケートにおける学校行事の充実：生徒AB評価〕 生徒95%、保護者95%、教職員100% 生徒会役員を中心に、生徒が主体となって運動会や丹高祭、グループマッチ等の学校行事に取り組んだ。特に丹高祭では、生徒自らイベントを企画し、大いに盛り上げた。	引き続き、生徒自らが企画・運営する学校行事を実現し、生徒が主役となって活躍する機会を増やすことで、生徒・保護者の評価が向上するように取り組みたい。
	部活動・ボランティア活動の活性化	部活動加入率90%以上、県総体60名以上、高文祭15名以上、四国大会以上の出場を目指す。 ボランティア活動について、寄せ植え講習会200名以上、その他100名以上を目指す。また、丹原七夕夜市やルールメイキングプロジェクトなど生徒主体の活動を推進する。 〔部活動加入率〕 A：90%以上、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満 〔県総体参加者数〕 A：60名以上、B：59～50名、C：49～40名、 D：39～30名、E：30名未満 〔高文祭参加者数〕 A：15名以上、B：14～13名、C：12～11名、 D：10～9名、E：8名未満 〔ボランティア活動参加者数〕 A：300名以上、B：299～250名、C：249～200名、 D：199～150名、E：150名未満	A	〔部活動加入率〕 91% 〔県総体参加者数〕 63名 〔高文祭参加者数〕 19名 〔四国大会出場者数〕 延べ9名 女子剣道部 個人1名 弓道 4名 水泳 1名 スポーツクライミング 1名 〔全国大会出場者数〕 2名 女子剣道部 個人1名 スポーツクライミング 1名 〔ボランティア活動参加者数〕 600名 寄せ植え講習会380名 丹原七夕夜市 220名 その他 120名	来年度より高校再編整備計画のため新入生の入学がないため、現在の在校生における部活動加入率は維持することができるが、県総体と高文祭に出場者数は、現在の数値目標のままだでは達成が難しい。また、四国大会以上への出場者数も減少することが予測される。そこで、新たに生徒数に応じた目標を検討したい。 ボランティア活動については、生徒数が減少するがこれまで以上に積極的な参加を募り、活動の機会と参加者数を増やしていきたい。
相談・人権	教育相談体制の充実	教育相談アンケート（6・10・2月）及び学校生活アンケート（7月・12月）を実施するとともに、毎学期個人面談週間を設け、きめ細やかに対応する。 〔相談できる：AB評価〕 A：90%以上、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満	B	〔学校評価アンケートにおける相談できる：AB評価〕 生徒95%、保護者81%、教職員96% 教育相談アンケートを実施して実態を把握し、必要な内容を教職員間で共有して対応した。各学期に個人面談月間を設け、生徒の状況把握と情報の共有を行った。また、実態把握や情報の共有にとどまらず、不登校生徒等支援委員会規程の見直しを行い、新たな不登校生徒等の支援体制を構築したり、個別の支援計画の充実を図ったりした。	今後も、アンケート、個人面談月間、教職員の情報共有の機会を設け、多様化する生徒の実態にさらにきめ細やかな対応ができるよう、人・物・スキルの面で充実を図りたい。
	人権教育の推進・いじめの防止	「丹高人権宣言」を浸透させ、啓発プリントやチラシ等を適宜配布することで、人権意識の高揚を図る。また、研修会・講演会の保護者の参加者を延べ40名以上を目指す。 「いじめ対応」のAB評価100%を目指す。 〔人権教育：AB評価〕 A：90%以上、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満 〔いじめ対応：AB評価〕 A：90%以上、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満	B	〔学校評価アンケートにおける人権教育：AB評価〕 生徒96%、保護者88%、教職員96% 〔学校評価アンケートにおけるいじめ対応：AB評価〕 生徒94%、保護者86%、教職員96% いじめ防止基本方針を改訂し、警察との連携や重大事態への備えなど、いじめへの組織的な対応を強化した。 アンケートにおける評価では、生徒、保護者の評価が多少は改善された。教職員、生徒は校内外の研修会・講演会等に多数参加し、人権意識の高揚に努めることができた。一方で、保護者の参加が昨年よりは少し増えたが、まだまだ少なかった。	人権教育といじめ対応の取組について、生徒、保護者、ともに評価が多少は改善されている。今後はより一層学校の取組をホームページや「丹高だより」などで保護者に周知していきたい。 また、講演会や公開授業、研修会への参加が多少は増加したが、更に多くの参加を促し、人権問題について家庭で話し合うように呼び掛け、保護者啓発を進めたい。
学校安全	情報セキュリティ・情報モラルの遵守	情報セキュリティ研修等を通して、教職員の情報セキュリティへの意識を高める。 1年生の1人1台端末オリエンテーションを充実させ、端末の適切な取扱いを徹底する。 〔情報セキュリティ・モラル：AB評価〕 A：90%以上、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満	A	〔学校評価アンケートにおける情報モラル：AB評価〕 生徒97%、保護者90%、教職員100% 1人1台端末は導入から5年が経過し、経年劣化のためか故障が増加し、修理にも時間が掛かっている。	今後も、情報セキュリティ研修において資料を分かりやすく提示し、教職員の意識を高めたい。
	健康安全・校内美化の推進	感染症対策及び熱中症対策を徹底する。 日常の清掃時間内いっぱい活動し、校内の美化に努める。 〔感染症等対策：AB評価〕 A：90%以上、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満 〔校内美化：AB評価〕 A：90%以上、B：89～80%、C：79～70%、 D：69～60%、E：60%未満	B	〔学校評価アンケートにおける感染症等対策：AB評価〕 生徒95%、保護者91%、教職員96% 〔学校評価アンケートにおける校内美化：AB評価〕 生徒91%、保護者88%、教職員88% 熱中症の患者は少なかったが、インフルエンザ感染拡大による学級閉鎖があり、日常の感染対策や予防啓発に課題が残った。	予想を超える猛暑日が続いているため、熱中症対策に関しては、効果的な予防の指導が難しい。猛暑日の行事では、環境面での対策を工夫したい。 感染症対策については、保健だよりの発行を継続し、意識の向上を図りたい。 今後とも、平素の清掃活動において時間一杯、丁寧に取り組むよう指導したい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

学 校 安 全	防災教育の推進	昨年度、全面的に改訂した危機管理マニュアルの活用を目指し、実践的な避難訓練や体験的防災活動、防災意識の高揚と実践力の育成を図る。 〔防災教育AB評価〕 A：90％以上、B：89～80％、C：79～70％、 D：69～60％、E：60％未満	A	〔学校評価アンケートにおける防災教育AB評価〕 生徒99％、保護者95％、教職員100％ 定期的に実施する防災・避難訓練の他に、昨年に引き続き「防災DAY」を実施した。西消防署、危機管理課などの関係機関と連携し、近隣の小学校と協働的な活動に取り組むことができた。予告なし避難訓練や緩降機体験、煙追避難訓練、損保ジャパンによる防災リュック・ワーグジョブの防災教室を実施し、生徒、教職員ともに防災意識を高めることができた。また、石川県立輪島高等学校長平野敏先生に防災講話をしていただき、生徒は大きな災害に対する備えの必要性や災害の実情を切実なものとして感じる事ができた。 危機管理マニュアルについては、雷注意報発令時の対応を追加するなど4か所を見直し、現状にあったものに改訂をした。	今後も予告なし避難訓練を実施し、けが人への対応や火災発生場所、不審者対応等、様々な状況を想定した実践的な避難訓練となるよう工夫していきたい。 「防災DAY」は今後も継続して実施し、防災意識の向上につながる活動を生徒に体験させたい。継続して地域の学校や自治体、関係機関と連携して防災教育を進め、生徒や保護者、教職員の防災意識を向上させ、生徒の主体性に基づいた活動を継続していきたい。 学校安全計画・危機管理マニュアルは毎年見直し、より充実した内容となるよう更新を続け、いざというときに行動できるよう、今後も生徒や教職員へ危機管理マニュアルの周知と理解を図りたい。
	地域との交流	苗販売や菊花展において、一般参加者総計1000人以上を目指す。また、花育、食育、講習会、リヤカー販売など、地域と共に教育活動を推進する。 〔農業関係行事来校者数〕 A：1000人以上、B：999～900人、 C：899～800人、D：799～700人、 E：700人未満 〔保護者や地域との交流AB評価〕 A：90％以上、B：89～80％、C：79～70％、 D：69～60％、E：60％未満	B	〔農業関係行事来校者数〕 800名 苗販売200名 菊花展600名 〔学校評価アンケートにおける保護者や地域との交流AB評価〕 生徒95％、保護者93％、教職員96％ 草花部門による多肉植物や花の寄せ植え講習会は14回実施し、参加者数は285人であった。地域との交流が深められ、園芸科学科の活動をアピールできた。	苗販売や菊花展、農家実習、花育活動等の諸行事を充実させ、地域、保護者、生徒との交流を通して学校の魅力を発信したい。
農 業 教 育	GAP認証・農業クラブ・台湾との交流の活性化	グローバルGAP・県GAP認証を継続し、5品目の認証を実現する。 農業クラブでは、意見発表会校内大会では全クラス、プロジェクト発表会校内大会では全専攻班が発表することで、活動の活性化を図る。 ブドウ輸出を通して台湾との交流を推進し、台湾研修を成功させる。 〔GAP認証〕 A：5品目以上、B：4品目、C：3品目、 D：2品目、E：1品目 〔農業クラブ校内大会発表率〕 A：100％、B：99～90％、C：89～80％、 D：79～70％、E：70％未満 〔台湾研修〕 A：現地に派遣、B：輸出、C：オンライン交流 D：台湾学習、E：研修なし	A	〔GAP認証〕 グローバルGAP認証継続（ブドウ） 県GAP認証継続（水稲・イチゴ） 〔農業クラブ校内大会発表率〕100％ 意見発表の部 第1回9人、第2回9人 プロジェクト発表の部 第1回4班 第2回3班 日本農業クラブ連盟プロジェクト発表の部Ⅰ類出場 グローバルGAP認証を8年連続取得し、今年度も台湾研修を実現した。草花班においては、花木苗の生産技術の地域への普及と実践し、日本農業クラブ連盟プロジェクト発表全国大会出場、愛媛大学主催社会共創コンテストグランプリ受賞、高校生ビジネスプラン・ベスト100など全国大会で高い評価を得た。	グローバルGAP認証、県GAP認証を継続しながら、GAP学習を充実させたい。 農業クラブ活動では、日頃の学習を探究型学習として発展させ、意見発表会校内大会では全クラス、プロジェクト発表会校内大会では全ての専攻班が発表することで、活動の活性化を図りたい。
業 務 改 善 等	ホームページ等の充実	ホームページアクセス数1日350件以上を目指すとともに、マチコミやTeamsを活用し、情報発信を図る。YouTubeの充実を図る。 〔ホームページ1日平均アクセス数〕 A：350件以上、B：300～349件、 C：250～299件、D：200～249件、 E：200件未満 〔マチコミ加入率〕 A：100％、B：99～90％、C：89～80％、 D：79～70％、E：70％未満	A	〔ホームページアクセス数〕 1日平均463件（3月10日現在） 〔マチコミ加入率〕 100％ 〔学校評価アンケートにおけるHP・マチコミ・Teams等での情報発信AB評価〕 生徒95％、保護者90％、教職員100％ 学校行事の様子、生徒の表彰、新聞等マスコミで取り上げられた内容については学校ホームページに掲載をし、生徒、保護者、教職員に情報発信をした。また、マチコミでは、学校行事の案内や緊急連絡をした。台湾研修の活動報告は、丹高公式YouTubeで公開した。	学校ホームページへのアクセス数の最大が1,641件であった。保護者等の学校への関心の高さが伺われる。今後とも、全校教職員の協力で更新頻度を高め、日々の学校生活や学校の魅力が伝わる内容にするなど、ホームページの更なる充実に努めたい。 マチコミは、緊急連絡のツールになる。特に、新入生の保護者には合格者登校日を通して直接加入を勧め、加入率100％を維持したい。 丹高YouTubeや他のSNSの有効な活用を検討し、学校魅力化の発信の推進をしたい。
	働き方改革の推進	閉庁日を4日設けるほか、年次休暇等の取得を促し、休みやすい環境を整える。教職員から働き方改革に関する提言を募集し、実現する。毎月、確実にノー残業デー、ノー部活動デーを設定し、実行する。時間外勤務月平均80時間以上の教職員ゼロを目指す。 〔時間外勤務80時間以上教職員数〕 A：0名、B：1～3名、C：4～6名、 D：7～9名、E：10名以上 〔働き方改革教職員AB評価〕 A：90％以上、B：89～80％、C：79～70％、 D：69～60％、E：60％未満	B	〔時間外勤務80時間以上教職員数〕 6名（4～2月平均） 〔学校評価アンケートにおける働き方改革AB評価〕 教職員80％ 〔学校評価アンケートにおける部活動活動時間・休業日AB評価〕 生徒90％、保護者84％、教職員100％ 働き方改革に関するアンケートや面談を実施した。今年度は、ノー残業デーとノー部活動デーの実施、職員朝礼回数の削減、朝補習・朝の鍵当番・運動会の休休日の練習廃止、PTAや同窓会理事会など外部との会議を勤務時間内に実施、早出・遅出勤務の利用促進など、教職員の働き方への意識改革や勤務時間外の業務の削減に取り組んだ。 教育業務支援員、スクールサポートスタッフの配置により、生徒の学習支援や教職員の業務支援の補助をすることで、生徒への手厚い指導と教職員の業務負担の軽減につながった。	日常からの管理職と教職員との会話を大切にし、業務内容や業務量の適正化に努めたい。働き方に関する意識改革を図り、ワーク・エンゲイジメントの向上に努めたい。また、業務時間外の業務をできる限り削減し、教職員のワーク・ライフ・バランスの向上に努めたい。 人員の増員、業務の精選及び平準化を図るとともに、時間外勤務が多い教職員とも面談を行い、時間外勤務80時間以上の教職員数ゼロを目指す。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。